

岡谷市議会 総務委員会 行政視察報告書

【総体事項】

1. 視察日程：令和元年11月13日（水）～15日（金）
2. 調査事項（視察先）
 - （1）あそべるとよたプロジェクトについて（愛知県 豊田市）
 - （2）総合型地域スポーツクラブについて（愛知県 半田市）
 - （3）公共施設マネジメントについて（愛知県 高浜市）
 - （4）中心市街地拠点整備事業について（愛知県 安城市）

3. 視察参加委員

委員 長	今 井	康 善
副 委 員 長	田 村	みどり
委 員	渡 辺	太 郎
委 員	武 井	友 則
委 員	早 出	一 真
委 員	笠 原	征三郎

【視察地報告】

1. 調査事項

あそべるとよたプロジェクトについて（愛知県 豊田市）

人口：約426,000人 面積：918.3km²

（視察事項）

豊田市の都心の賑わいや回遊性を向上するために進められている「都心環境計画（平成27年度策定）」の一環として豊田市駅周辺にある開けた空間“まちなか広場”を“人”の活動やくつろぎの場として開放し、市民・企業・行政が一体となってアイデアを出し合い、使いやすく賑わいのある広場に生まれ変わるための継続的な仕組みを作っていく。それが「あそべるとよたプロジェクト」である。

新豊田市駅から豊田市駅周辺の、7か所のまちなか広場を開放し、賑わいを創出する取り組みで、2015年度から行政主導で始まり、広場を使いたい人が、営利、非営利別に使用料を支払いイベントや物品販売等を行っている。

豊田市の名鉄豊田線の豊田市駅と愛知環状鉄道の新豊田市駅の2つの駅をつなぐペDESTリアンデッキの通行量は、平日約3万人、休日約2万人で、中心市街地で最も通行量が多いことから、活用の可能性があるとの仮説から、この広場だけ「長期飲食等事業」（収益事業型による広場活用）を行っている。ここは市が管理する道路であり、歩行者通行の支障のない区域を道路区域から除外して区域を広場として運用している。道路から広場にすることで、広場管理者が自由にルールを定めて活用できることから、広場化して飲食事業者を公募し、飲食事業の収益により広場の維持管理や運営をする事業である。

- 【ポイント】
- (1) まちなか広場が毎日（通年）使用できる。
 - (2) 7つのまちなか広場の使用手続きがWEBで簡単にできる。
 - (3) つかいこなし講座を受講して各自の責任で自由に使える。
 - (4) 1つの企画で複数広場または連続日・連続月で使用すると使用料が2割引。

平成27年は1か月からお試しでスタートし、改善を繰り返しながら、毎年時間を延ばし、今は365日運営しているような体制となっている。

行政主導で始めたが、あそべるとよた推進協議会という任意団体を設置し、現在はそこが主体となって進めている。

2. 視察日時 令和元年11月13日(水) 13:30~15:30

3. 参加者所感

- ペDESTリアンデッキの公共的空間を市民に貸し出すことにより、日常的な賑わいを創出することができたことは評価できる。
- 駅前の賑わいは、そのまちの元気さに比例すると考えることから、岡谷駅前の今後の開発には、賑わいが生まれるような(通過ではなく滞留時間が増える空間作り等)工夫が必要ではないか。
- 岡谷市では、季節による寒暖の差が激しいため、屋外施設の通年営業などは難しいことから、賑わいの創出事業としては、建物が必要になることが考えられるが、公共施設が増えることに懸念は残る。
- 岡谷市で実施する場合は、利用したいと思う需要、場所の選定や確保について調査が必要ではないか。
- 童画館通りで様々なイベントを実施している岡谷TMOと連携し、賑わいの創出や活性化について試行的に検討してみたらどうか。
- 岡谷市は、歩行者というよりも、スワンドームでの各種スポーツ大会、鶴峰公園のつつじ祭り、出早公園のもみじ祭り、横川河のさくら祭り、やまびこ公園、湖畔公園等、大勢の人が集る場所で地域活性化の視点で総合的な検討ができないか。さらに諏訪湖周サイクリングロードも含む諏訪湖創生ビジョンと連動した取り組みは大きな魅力があると思う。
- 行政側が民間活力導入のために環境整備を行っている点、民間が始めたことをサポートするのではなく、市の抱える問題に対処するためにいかに民間活力を導入し問題解決に向かっていくかを考えている点、実験的・試験的な施策によるまちづくりを進めている点も挑戦的で参考になる。
- 岡谷市として同じように民間活力を活用しようとした場合に問題となってくるのは活用できる民間事業の少なさや、人口規模の違いから生まれる経済規模の違いにより、環境を整備しても利用者が少なくなり十分に場所が活用されない状況の発生や、イベントを開催してもあまり人が集まらず賑わいの創出が思うようにいかない、収益がうまく出ない可能性が出てくることが考えられる。
- 岡谷市で同様の事業をするには、人口規模が違い難しいと思うが、規模ややり方は違っても、楽しめる空間があればいいと感じた。

【視察地報告】

1. 調査事項

総合型地域スポーツクラブについて（愛知県 半田市）

人口：約120,000人 面積47.42km²

（視察事項）

半田市は、小学校13校、中学校・高校各5校、大学1校あり、中学校区ごと5つの総合型地域スポーツクラブが設立されており、地域の方が主体となって運営している。ソシオ成岩スポーツクラブ（以下「ソシオ」という）がNPO法人、それ以外は任意の団体で、中学校の敷地内に事務所を置いている。ソシオを含め2つのスポーツクラブは指定管理で、その他は会費、地域からの援助金、企業の賛助金等で運営している。

ソシオは平成6年に設立。中学校にある社会体育施設で、学校の行事・部活動を行いながら昼間も夜間もスポーツクラブで利用している。多くの種目が用意されており、子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルの競技者まで、各年齢・興味・技術レベルに応じて活動できる。

各スポーツクラブの設立にあたっては準備金を補助したが、現在、補助金は交付されていない。事業連携として親子や高齢者のスポーツ教室などの委託として支払われている。スポーツクラブ立ち上げ時は、中学校の部活動の部員は、スポーツクラブの会員となって、平日、土日祝日も部活動を行っていたが、10年経過し、会費を払って部活動を行うこと、地域間で会費の額が違うこと、学校の部活動の顧問の先生とスポーツクラブの指導方針、やり方が違うなどの問題が発生し、平成24年度から校長判断でスポーツクラブでの活動ではなく、部活動に戻ることが可能となり、現在4つのスポーツクラブが部活動に戻った。別のスポーツをやりたい、部活動の延長ということスポーツクラブに個人で加入する生徒もいるが、会員数は減っている状況である。

土日祝日、夜間の学校体育館、運動場、武道場は、学校、市、地区の行事の次にスポーツクラブが優先で使用できる仕組みとなっているので、スポーツクラブに加入していないとなかなかスポーツ施設を使えないということがある。

また、スポーツクラブの指導者に対しスポーツアシスタント養成研修会を年2回開催しており、資格を取得し指導者として活躍している。（3年更新）

2. 視察日時 令和元年11月14日(木) 9:30~11:30

3. 参加者所感

- 岡谷市が抱える高齢人口の増大の中で健康寿命の延伸問題解決のためには、スポーツも一つの切り口になると考える。今年度から始まった高齢者関連のスポーツの事業には大きな期待をしたい。
- 岡谷市の「総合型地域スポーツクラブやまびこクラブ」の事業内容の充実や、クラブと市体協、行政との連携が重要と感じた。
- 岡谷市でも、少子化、ニーズの多様化、指導者の不足、教員の多忙化等部活動を取り巻く状況は課題山積である。総合型地域スポーツクラブとの連携も課題解決の選択肢の一つと感じた。
- スポーツ振興は、芝生グラウンドや400m陸上競技場の施設整備等、誰でもいつでも、いつまでもスポーツに親しめる環境やトップアスリートを目指す青少年に応える育成環境・システムの整備が必要不可欠。時代のニーズである健康寿命の延伸のため積極的な推進が必要と考える。
- スポーツクラブを存続させるためには、立場やスポーツクラブのあり方について明確にする必要があると感じた。
- この事業のメリットは、市民がスポーツを気軽にできる点のほかに、地域の人々が学校に入ることによって子どもの健全育成につながることで、異世代との交流が図られることがある。学校内に地域の人と交流できる機会を作れるような複合化を学校や地域に合わせて考えていく必要がある。
- 指導者にあたる地域認定スポーツアシスタントの育成は、今後の教員の働き方改革、部活動の指導教員、また、レベルの高い指導力の導入を考えれば必要あると思う。
- 中学校にない種目を総合型地域スポーツクラブで行えることは児童、生徒にとっては選択肢が広がり良いと思われる。
- 岡谷市は、少子化によりスポーツする子どもも減少しているので、中学校区ごとの設置は必要ないと考える。
- 「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでもスポーツに親しめるように」という基本理念を基に、市民の誰もがスポーツに関心を持ち、実践していくことは素晴らしいことと感じた。

【視察地報告】

1. 調査事項

公共施設マネジメントについて（愛知県 高浜市）

人口：約49,000人 面積：13.0km²

（視察事項）

高浜市では、限られた財源・資産を有効に活用するために地域ごとの人口構成など地域の特性を踏まえ、既存の公共施設の機能更新等に係る将来的な財政負担の平準化を図ることにより、長期的視点に立った財政計画に基づいた財政運営を行い、持続可能な自立した基礎自治体を目指すことを目的に今後の公共施設のあり方の検討を進めている。

職員による公共施設のあり方検討プロジェクトを設置し、施設の利用率やコスト等について調査・検討を行い、高浜市公共施設マネジメント白書を作成。白書から明らかになった公共施設の課題を踏まえ、今後40年間の公共施設のあり方の方向性を示し、公共施設の総量圧縮、長寿命化、機能移転等を踏まえた公共施設マネジメントの全体方針となる「高浜市公共施設あり方計画」を策定し、これに道路、橋梁、上下水道、公園などのインフラ施設の方針を加え、今後の公共施設のあり方の全体方針となる「公共施設総合管理計画」及び連動した長期財政計画を策定した。

「市庁舎整備」「勤労青少年ホーム跡地活用」「高浜小学校整備」の3事業をモデル事業と位置付け、公民連携で公共施設マネジメントに取り組んでいる。

新庁舎は2017年1月開庁、勤労青少年ホーム跡地に整備された民間スポーツ施設は2019年4月に一部を除きオープン、小学校の新校舎が2019年4月オープンと、それぞれ進ちょくしている。

旧庁舎整備については、建設後約40年経過し耐震化が急務だったことから検討。事業費は、耐震改修し20年間利用した場合を想定し、耐震改修費、解体処分費、維持管理・運営費で計33.2億円を上限とした。整備費用を抑え支払いコストを平準化するため、民間事業者との20年リース契約とした。20年のスパンの決め方は、60年間の貸与年数で想定した時、旧庁舎の残期間が20年だったことや、IT化、AIの急速な進行などを考えたとき、行政事務も変わるのではないかとの考えから、事業期間20年を設定された。

上限額、面積ありきの中での設計となったことから、旧庁舎の会議室を多く作らず、議場もフラットなフロアで可動式の机を設置し、常任委員会、全員協議会のほか行政側の会議等を議場で行なうなど、庁舎全体がコストを抑えたつくりになっている。（市長室、副市長室もかなりコンパクトなつくり）

P F I 事業で建て替えの新高浜小学校については、市内で最初に建てられた小学校で、経年劣化が進んでいたことから、建て替えに合わせて地域の施設を複合化しようと事業が進められている。市民とのワークショップで協議を重ね、最終的に児童センター、高齢者の居場所になっている「老人憩の家」、介護予防の拠点「ものづくり工房」（※隣の図工室とものづくり工房と一体での利用可）、高齢者のためのIT教室のほか、交流館機能も入っている。保護者、学校からは、セキュリティ対策の意見をいただき、不審者対策として、授業中は扉を閉めて行き来できない形で整備している。体育館にはメインアリーナ（小学校用）とサブアリーナ（地域の方用）があり、サブアリーナは津波が来たときの避難所と位置づけている。中央公民館のホール機能を小学校のメインアリーナに移し、複合化により財政負担の平準化を図った。

勤労青少年ホームの跡地活用については、総量圧縮の中で施設が廃止されたあと、市の土地の有効活用でモデルとして進めている。既存のテニスコートがあったことから、スポーツ施設でとの要望を受け、屋内プール、テニスコートの再整備で実施。市の民間事業者が整備・運営するスポーツ施設内のプールを、市内小学校の水泳の授業に活用することにより、新高浜小学校にはプールを新設しなかった。財政上のメリット以外にも、通常、小学校のプールの場合、清掃や水質管理などの維持業務、水泳指導など先生方が担う部分を、民間事業者と組むことで、そうした業務から解放されるほか、水泳の授業には先生が同行するが、スポーツ施設側のインストラクターが指導に加わるため、児童は専門性の高い指導を受けられるうえに安全性も高まる。送迎も民間事業者が行う。先生方の負担が減る一方で授業の質が高まるという点も、民間事業者と連携する大きなメリットになっている。屋内プールなので、カリキュラムをまわせば年間通して利用できることから、ゆくゆくは他の小学校も同じ方向で進めていく。

2. 視察日時 令和元年11月15日（金）9：30～11：30

3. 参加者所感

- 新高浜小学校を核に地域コミュニティの拠点になる複合施設をつくり、将来にわたり持続させ、様々な世代が一堂に集まれることは評価できる。
- 新高浜小学校のプールについては、維持業務、水泳授業の教師の負担軽減などのメリットは大きく、この発想は大きく評価する。市民プールの老朽化、プール授業を委託できる事業者があるかなど課題は多いと思うが、岡谷市も水泳授業を既存の市民プールで行うことが可能ではないか。
- 岡谷市総合計画についても、財政計画も併せて策定することが必要だと思う。
- 岡谷市の庁舎について、今後はスペースのより効率的な利用、IT 時代に対応した Wi-Fi 等の整備、子どもから高齢者、障がい者の方など全ての市民が使い易いユニバーサルデザイン化を進めていくことが課題だと思う。
- 岡谷市保育園整備について、統廃合の検討、土地や場所の確保、民間利用等、今後の大きな課題だが、早急に PFI 等を含めた様々な手法多角的な検討が必要と感じた。
- 岡谷市では今後の公共施設整備について、より長期的な視点から行うこと、利用状況、今後の利用予測を十分行ったうえで進めていくことが高浜市の公共施設マネジメントから参考にすべき点である。
- PFI 方式の事業など民間活力を利用することにより、事業費の削減、財政負担の軽減をしていくことが必要である。
- 近隣市町村と連携をして、重複施設の統廃合をすることも大切である。
- 公共施設の統廃合、集約には住民説明の中で、理解をしていただかなければ次のステップに進めないことから、住民の理解には時間を要すると考えられるので、長期間の計画が必要であると感じた。

【視察地報告】

1. 調査事項

中心市街地拠点整備事業について（愛知県 安城市）

人口：約190,000人 面積：86.05 km²

（視察事項）

JR 安城駅から徒歩5分の中心市街地拠点施設アンフォーレの場所には、もともと農協系の総合病院（厚生病院）があったが、平成14年5月に校外へ移転したことで、病院関係者3千人（1日）の利用者がいなくなり、中心市街地の商店街も一気に衰退していったことから、人の集まる施設の整備の検討が始まった。市長がニューヨークの図書館を視察したことで、年間100万冊の利用があった図書館を郊外から持ってくることに決まった。

JR 安城駅を中心とする中心市街地内の市有地（約12,305 m²）において、公共施設の整備等を行うPFI事業（民間資金を活用した社会資本整備）と、民間施設の整備等を行う定期借地事業を一体的に実施し、中心市街地拠点施設を整備した。築30年を超えた中央図書館を郊外から中心部に移し、民間の力を生かしながら図書館とスーパーマーケットなどの複合施設を整備し中心市街地のにぎわい創出を図っている。

施設の整備はPFIと定期借地という2つの方式を組み合わせ、市直営の図書館では、会話や軽食を認めるなど新しい運営を行っており、本の分類をジャンル別にすることで、本屋のように興味のあるジャンルをまとめてみるができる。貸出返却のセルフレジ化によりレファレンス対応に力を入れている。席数も700席と多く、ここに来れば居場所があるということで多く人を呼び込んでいる。安城市図書情報館やホールがある本館（公共施設棟）、願いごと広場や公園などの公共屋外施設、民間経営による立体駐車場棟、民間経営による南館（商業施設棟）からなり、2017年6月1日に開業。

PFI事業の契約期間は平成26年3月から平成44年5月まで、契約金額は約62億5千万円。公設公営に比べ市の財政負担を9.5%縮減。定期借地権の契約期間は平成28年9月から平成49年5月まで、貸付金額は年額約1,575万円で、定期借地部分は、民間運営の駐車場やスーパーマーケット、カルチャースクールとなっている。

2. 視察日時 令和元年11月15日(金) 13:30~15:30

3. 参加者所感

- 雨の日に駐車場から各施設へ濡れずに移動でき、快適な空間が約束されている。市民満足度が高く、公共施設として評価はとても高い。
- 当市の公共施設の老朽化等による存続問題、現在、閑散としている JR 岡谷駅周辺の整備など、大いに参考になる。行政サービスと民間事業者が共存できれば、市民へのサービス向上にも大きな期待ができる。
- 岡谷市が安城市と同様に P F I 方式を導入しようとした時、事業者が参加してくれるか。インターネットが普及している現在、図書館のニーズがどれほどあるかなど課題・問題は多い。
- 図書館などがきちんと整備されている行政区は、それだけで子どもや高齢者に対して優しさにあふれているまちに思える。岡谷市でも明るく清潔感のある市民が誇れる図書館設置を要望する。
- 少子高齢化による人口減少、国からの地方交付税や補助金の削減など厳しい財政状況の中でどう地域活性化を進めていくのかが大きな課題。
- 人が集まればおのずと付帯サービス産業が発生する。飲食店や物品販売店舗等様々なサービスを提供したい人が集まる、という視点は重要。
- 岡谷図書館の有効活用は、市の活性化に重要と認識している。図書館の充実にはバックヤードも含めたスペースの確保、ICT化の整備等が課題。場所について、ララオカヤの廃止、取り壊しの方針が示されている中、JR 岡谷駅周辺の拠点施設に図書館を持ってくる考え方もあるのではないかと。
- 幼児のあそぶスペースも併設されており、調べ物をする大人、勉強をする学生と広い世代が各目的を達成でき、それが妨げられない仕組みができていた点は参考になった。岡谷市でも、図書館設備を工夫することで図書館自体は稼げなくとも、賑わいの創出により周辺の活性化が図られるように周辺環境の充実が求められる。知識を得られるだけでなく、図書館が情報発信をしていくというのは新しい視点であった。
- 岡谷市の中心市街地にも「アンフォーレ」のような複合施設を整備することで、まちの賑わいの創出、活性化に繋がるような気がする。

- 図書館だけでなく、様々なイベントや交流、情報、販売や飲食等、それぞれが持つ力が重なり合って、大きな集客、活性化に繋がっていると感じた。
- イルフプラザは機能的な利用ができていないと感じる。「アンフォーレ」のように図書館を含めた複合施設を整備することも良いのではないか。
- 岡谷の中心市街地に同様の施設を配置した場合、施設の中だけではなく訪れた人が周辺施設やまち歩きができる仕掛けが必要と感じる。
- 安城市の財政力は非常に豊かであると認識できるが、公共施設の建設にあたり、様々な取り組みの中で、質の向上、コスト削減を目標に財政負担を9.5%削減した。本市においても、民間事業者とともに財政負担を軽減しながら、まちの新たな開発に取り組むべきと感じた。
- 今までの図書館のイメージとかけ離れていたが、一日中居ても楽しめる場所だと感じた。